

## 第107回 東日本地区研究例会のお知らせ（「英語教育・メディア研究分科会」共催）

第107回 東日本地区研究例会を、9月14日（日）午後2時より、東日本地区の分科会「英語教育・メディア研究分科会」との共催にて開催いたします。東日本地区はもちろん、中部地区、西日本地区からの参加も歓迎いたします。（会場入構申請とZoom情報連絡のため、事前申込制です。）

【日時】： 2025年9月14日 14:00~16:30 \*受付開始時間：13:30より

【開催形式】： ハイブリッド形式

<対面>： チエル株式会社 チエルーム<定員20名>  
東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー22F  
アクセス：[CHieru Japan](#)

<オンライン>： Zoom<定員30名>（前日までにZoom情報送付予定）

【申込】： こちらのURLまたはQRコードからお申込みください。  
どなたでも全国からご参加いただけます。

<https://forms.gle/GVzgm7g88yhNS12FA>



【締切】： 9/12（金）（対面）・9/13（日）（オンライン）

【会費】： 無料（会員・非会員共）

【連絡先】： 吉原 学（日本メディア英語学会東日本地区長・副会長）  
[manabicreation@gmail.com](mailto:manabicreation@gmail.com)

### 第1部 特別講演：14:00-15:00

発表者： 森本俊先生  
玉川大学文学部英語教育学科教授

発表題目： 「英語コーチングスクールCMのマルチモーダル批判的ディスコース分析」

要旨： マルチモーダル批判的ディスコース分析（MCDA）とは、言葉だけでなく、映像・音声・身振りなど、さまざまな表現のモードを対象にする分析方法です。これらの表現が組み合わせることで、私たちが「当たり前」と思っている社会の見方や価値観が形づくられます。その中には、気づかないうちに権力関係や特定の考え方（イデオロギー）が広まり、強化されたり変化したりする仕組みも含まれています。MCDAは、そのような仕組みを批判的に明らかにすることを目指します。本発表では、英語コーチングスクールのテレビCMを例に、MCDAをどのように使って分析できるのかを紹介します。具体的には、言葉や非言語モードを通して「英語」や「英語学習」がどのように描かれているのかを考察します。さらに、大学生がこの分析方法を学ぶことの意義についても議論します。

## 発表者プロフィール：

森本 俊（もりもと しゅん）：



玉川大学文学部英語教育学科教授。The University of Auckland大学院修士課程修了（M.A. in Language Teaching and Learning）、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科後期博士課程満期取得退学（博士（学術））。茨城県私立中等教育学校教員を経て現職。専門は英語教員養成，認知意味論，第二言語習得論。最近の研究テーマは，英語教員養成課程におけるリフレクションの実践。文部科学省検定教科書『New Rays English Communication』編集委員。主な著書：『多文化共生時代の英語教育』（共編著、いいずな書店2017年）、『コア・イメージで英語感覚を磨く！基本語指導ガイド』（明治図書出版2017年）、『English in Tune—ストラテジー別に学ぶ4技能融合型テキスト—』（共著、ナショナルジオグラフィック／センゲージラーニング2022年）。株式会社ベネッセコーポレーション『Challenge English』動画講師および英語スピーチコンテスト審査員、『夏のチャレンジ全国小学生「未来」をつくるコンクール「英語スピーチ部門」審査員等を務める。

## 休憩・交流会：15:00-15:20

## 第2部 会員発表：15:20-16:20

**発表者：** 吉原学先生  
慶應義塾大学商学部・理工学部非常勤講師  
株式会社マナビ・クリエーション代表取締役

**発表題目：** MALLシステム（CaLabo MX）にChatGPTを活用した総合型学習の実践報告

**要旨：** 2025年度春学期において、慶應義塾大学で商学部「英語リーディングⅡa（中級）」の3クラス（計108名）および理工学部「英語リスニング1」（8名）ならびに「英語リスニング2」（10名）の授業を担当し、全14回の授業を実施した。英文題材はCEFR B1～B2レベルで、語数は約130語。1週間に2本の記事を取り上げて学習した。授業は時事英語ニュース記事を用い、リスニング → チャンク・リーディング → 音読練習・録音 → ライティングという学習サイクルに基づいて展開した。この学習サイクルの設計に基づき、MALLシステム（CaLabo MX）を導入し、「すき間」時間を有効に活用することで、英語の思考回路（情報の伝達様式）を意識させながら、聴解力・読解力・文章作成力・発話力の強化を図った。今回の発表では、その授業実践の報告を行う。

## 発表者プロフィール：

吉原 学（よしはら まなぶ）：



1992年にサンフランシスコ大学大学院教育学部英語教授法学科修士課程を修了後、社団法人国際交流サービス協会に所属し、国際協力機構（JICA）国際協力総合研修所にて英語常勤講師として勤務を開始。2003年より主任講師兼教務副主任を務め、2009年3月に退職。その後は、企業研修、教材開発、カリキュラム策定をはじめ、高等学校検定教科書の編集委員など、英語教育の幅広い分野で活動してきた。2015年4月から2020年3月までは東京経済大学にて特任講師を務め、「英語コミュニケーション」「総合英語セミナー」「アドバンスコース」を担当するとともに、入学試験（英語）関連業務に従事。2020年4月から2022年3月までは山梨学院大学にて特任教授を務め、「英語I～IV」「強化英語」を担当し、2021年4月から2022年3月までは英語セクション主任を兼務した。また、カリキュラム改革委員会およびガイダンス委員会の委員を務め、入学試験（英語）関連業務では2021年度副査、2022年度主査を担当した。さらに、2022年4月から2024年4月までは文部科学省・大学入試センター「大学入学共通テスト」英語（リスニング）の作問委員を務め、第5問の主担当を担った。現在は、ICTを活用した英語教授法に関する研究を進めながら、1996年より教壇に立ち続けている慶應義塾大学にて非常勤講師を務める一方、東京都あきる野市において小学生から社会人までを対象とした人財教育に重点を置いたスクールを運営している。主な著書に『Smart Writing—はじめてのパラグラフ・ライティング』（成美堂）、『Grammar Launch—キャリアを拓く総合英語』（金星堂）、『New Rays English Communication I・II・III』（いいずな書店）などがある。

## MAP：

